

## 皮膚科領域感染症に対する NY-198 の臨床的検討

中山樹一郎・旭 正一・占部 治邦

九州大学医学部皮膚科

各種皮膚感染症に対し、新しく開発されたキノロンカルボン酸系合成抗菌剤である NY-198 を投与し、その臨床的有効性および安全性を検討した。投与症例数は計11例でその内訳は毛包炎1例、膿疱性痤瘡2例、化膿性爪囲炎2例、集簇性痤瘡1例、感染性粉瘤1例、慢性膿皮症1例、二次感染1例、褥瘡2例であった。

投与方法は、1回100ないし200mgを1日3回食後に内服させ、投与期間は原則として2週間としたが、臨床的治癒あるいは副作用の発現等を考慮して適宜調整した。

臨床効果は投与終了時点で判定し、その結果は著効6例、有効4例、無効1例で、有効率は90.9%であった。細菌学的効果は11例中6例で検討し、検出された *Staphylococcus aureus*, *Enterococcus faecalis*, *Staphylococcus xylosus*, *Pseudomonas aeruginosa* に対し、消失3例、減少1例、不変1例、菌交代1例であった。副作用は1日600mg投与群で2例(ともに胃痛)、300mg投与群で1例(嘔気・嘔吐)みられた。症状はいずれも軽度で胃痛の1例は減量、他の1例はそのまま無処置で継続投与した。嘔気・嘔吐の1例は投与中止した。臨床検査値の異常は検討した8例で認めなかった。

以上の結果より NY-198 は皮膚科領域感染症に対し満足すべき臨床的有用性をもつことが示唆された。

NY-198 は北陸製薬で開発されたキノロンカルボン酸系の新合成抗菌剤である (Fig. 1)。

本剤の *in vivo* での抗菌活性は同系統の ofloxacin (OFLX) の1~2倍、norfloxacin (NFLX) の2~4倍といわれ、また抗菌範囲も広く、皮膚科領域の感染症で分離頻度の高いブドウ球菌やレンサ球菌などにも強い抗菌力を有するといわれる<sup>1)</sup>。

今回、本剤の皮膚科領域における各種感染症に対する若干の臨床的評価を試みたのでその成績について報告する。

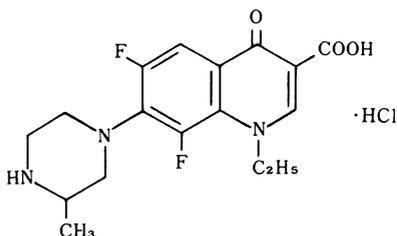


Fig. 1. Chemical structure of NY-198

## I 臨床的検討

## 1. 対象

対象は昭和61年8月より昭和61年10月までの当院皮膚科外来に受診した患者11例である。その内訳は、毛包炎1例、膿疱性痤瘡2例、化膿性爪囲炎2例、集簇性痤瘡1例、感染性粉瘤1例、慢性膿皮症1例、二次感染1例、褥瘡2例であった。年齢は、13歳~92歳、性別は男6例、女5例、重症度は軽症2例、中等症7例、重症2例であった。

## 2. 投与方法および判定効果

1回100ないし200mgを1日3回食後に経口投与した。投与期間は6日~15日間、総投与量は1.8g~8.4gであった。

臨床効果の判定は、著効 (Excellent)、有効 (Good)、やや有効 (Fair)、無効 (Poor) の4段階および不明 (Unknown) で行なった。判定は投与終了時点で、それぞれの疾患の性質を配慮し、臨床効果を判断した。

また可能な限り投与前および投与後の病巣から細菌分離を試み、細菌学的効果として、消失 (Eradicated)、減少 (部分消失) (Decreased)、不変 (Persisted)、菌交代 (Replaced) の4段階および不明 (Unknown) で判定した。なお病巣分離菌の最小発育阻止濃度 (MIC) の測定は日本化学療法学会標準法<sup>2)</sup>により行なった。

Table 1. Clinical results of NY-198

No.	Sex	Age	Diagnosis	Severity	Status of disease at beginning of treatment	NY-198		Isolated organism	MIC ( $\mu\text{g/ml}$ )	Bacteriological response	Clinical effect	Utility	Side-effects
						Dose (mg/day)	Duration (days)						
1	M	39	Folliculitis	Mild	Aggravating	100 × 3	7	—	/	Unknown	Excellent	Remarkably useful	—
2	M	22	Acne pustulosa	Moderate	Aggravating	100 × 3	14	—	/	Unknown	Poor	Not useful	—
3	F	20	Acne pustulosa	Moderate	Stationary	100 × 3	14	—	/	Unknown	Excellent	Remarkably useful	—
4	M	24	Suppurative paronychia	Moderate	Aggravating	200 × 3 ↓ 100 × 3	3 ↓ 12	<i>S. aureus</i>	0.78	Persisted	Excellent	Moderately useful	Stomach-ache
5	M	13	Suppurative paronychia	Moderate	Aggravating	100 × 3	14	<i>E. faecalis</i> <i>S. aureus</i>	6.25 3.13	Decreased	Good	Moderately useful	—
6	M	19	Acne conglobata	Severe	Aggravating	200 × 3	14	/	/	Unknown	Good	Remarkably useful	—
7	F	22	Infectious atheroma	Mild	Stationary	100 × 3	14	<i>S. aureus</i>	0.39	Eradicated	Excellent	Remarkably useful	—
8	F	31	Chronic pyoderma	Severe	Aggravating	100 × 3	14	—	/	Unknown	Excellent	Remarkably useful	—
9	F	38	Secondary infection	Moderate	Aggravating	200 × 3	12	<i>S. aureus</i>	0.78	Eradicated	Good	Fairly useful	Stomach-ache
10	M	92	Decubitus	Moderate	Stationary	100 × 3	14	<i>S. aureus</i>	1.56	Eradicated	Excellent	Remarkably useful	—
11	F	76	Decubitus	Moderate	Aggravating	100 × 3	6	<i>S. xylosum</i> <i>E. faecalis</i> <i>S. aureus</i> <i>P. aeruginosa</i> ↓ <i>S. haemolyticus</i> <i>Lactobacillus</i> sp.	12.5 6.25 12.5 1.56 12.5 0.78	Replaced	Good	Fairly useful	Nausea Vomiting

## II 治療成績

### 1. 臨床効果

臨床検討を実施した全症例の内訳と治療成績を Table 1 に示した。11症例に対する NY-198 の臨床成績は著効 6 例、有効 4 例、無効 1 例で、有効以上の有効率は 90.9% であった。

### 2. 細菌学的効果

Table 1 の如く、臨床検討した 11 例中 6 例の病巣から投与前に細菌を分離し得た。*Staphylococcus aureus* 6 株、*Enterococcus faecalis* 2 株、*Staphylococcus xylosum* 1 株、*Pseudomonas aeruginosa* 1 株に対し全体では消失 3 例、減少 1 例、不変 1 例、菌交代 1 例であった。もっとも多かった *S. aureus* 6 株に対しては、消失 4 株、減少 1 株、不変 1 株であった。

### 3. 副作用および臨床検査値異常

副作用は 1 日 600mg 投与群で 2 例(ともに胃痛)、300mg 投与群で 1 例(嘔気・嘔吐)みられた。胃痛に関しては症状はいずれも軽度で 1 例は減量、1 例はそのまま無処置で継続投与した。嘔気・嘔吐の 1 例は臨床改善もみられたため、訴えのあった段階で中止した。臨床検査上では検討した 8 例で異常を認めなかった。

## III 考察

NY-198 はキノロンカルボン酸系の新しい経口合成抗

菌剤であるが、近年開発された同系統の NFLX, OFLX に比べ *in vitro* での抗菌活性はほぼ同等、また *in vivo* では 1~4 倍高いといわれる<sup>1)</sup>。体内動態の面からも皮膚病巣への移行は良好とされている<sup>1)</sup>。

今回、11 例の各種皮膚科領域感染症に本剤を投与し、著効 6 例、有効 4 例、無効 1 例の成績を得、90.9% の有効率を得た。NY-198 はグラム陽性菌にも強い抗菌力を有するといわれるが、今回細菌学的に病巣より分離し得た *S. aureus* 6 株に対しても消失 4 株、減少 1 株、不変 1 株の成績を得た。

副作用は 11 例中 3 例に軽度の胃痛、嘔気・嘔吐がみられた。臨床検査値異常は認めなかった。

以上より、NY-198 の臨床的有効性、細菌学的効果および副作用を考慮した臨床的有用性は、極めて有用 6 例、有用 2 例、やや有用 2 例、無用 1 例であり、有用以上の有用率は 72.7% となった。従って、NY-198 は皮膚科領域感染症に対し安全性の高い有用な経口抗菌剤と考えられた。

## 文 献

- 1) 第 35 回日本化学療法学会総会、新薬シンポジウム (3)、NY-198。盛岡、1987
- 2) 日本化学療法学会：最小発育阻止濃度 (MIC) 測定法再改訂について。Chemotherapy 29: 76~79, 1981

## NY-198 IN SKIN INFECTIONS

JUICHIRO NAKAYAMA, MASAKAZU ASAHI and HARUKUNI URABE

Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Kyushu University, Fukuoka

We studied the clinical efficacy of NY-198, a new quinolonecarboxylic acid derivative, in dermatological infections. NY-198 was orally administered to 11 patients with various skin infections in a dose of 100-200 mg three times daily for 6-15 days.

Clinical efficacy was excellent in 6 cases, good in 4 and poor in 1, and the overall efficacy rate was 90.9%. The isolated organisms from affected sites in 6 of 11 cases were *S. aureus*, *E. faecalis*, *S. xylosum* and *P. aeruginosa*. Bacteriologically, 3 organisms were eradicated, 1 decreased, 1 persisted and 1 replaced.

Side-effects were observed in three cases, stomachache (2) and nausea and vomiting (1). But these were mild and transient.